

リスク評価割引は本格的な火災保険

執筆担当者

江利川宏行

リスク評価割引を体験した。体験などと言ってしまうと大きさに聞こえるかもしれないが、やはりそれは「体験」が妥当に思える。本格的な火災保険、あるいは火災保険の本来あるべき姿ではないのだろうか。火災保険の割引制度のひとつではあるのだが。

リスク評価割引とは、その建物のリスクに対する設備などや過去における損害率を調査して、物件ごとに火災保険料率を算出する制度である。言われてみれば物件はそれぞれ違う。また、社員教育などによっても、火災に対する従業員の意識の差が当然生じる。企業側の火災に対する備えや意識

が、火災保険料率に反映する制度だと考えられる。調査の結果、良質な物件には、最大で四〇%の保険料割引率が適応可能となっている。

概略を紹介しよう。

一、対象となる火災保険は一般物件（事務所ビル・ホテル・店舗等）と呼ばれる保険契約。

二、一建物内の、建物・什器・設備などの保険金額合計が十億円以上の一般物件。（最大割引率四〇%）

三、一建物内の、建物・什器・設備などの保険金額合計が一億円以上の一般物件。（最大割引率三〇%）

四、工場物件は、一構

内の建物・機械設備・製品などの保険金額合計が十五億円以上。（最大割引率四〇%）

又、物件の調査方法として、一〇億円以上の物件は、保険会社の委託するリスクコンサル会社から専門の調査員が現地へ出向く。一

億円以上の物件は保険会社内の担当社員が現

地へ出向く。（今回はA保険会社による調査方法。尚、調査費は無料）

今回の調査結果。

二七%の割引率が算出された。

調査した物件は、保険金額が約七〇億円の火災保険を契約中。同行した調査員が半日かけて建物内を調査した。建物の平面図・消火設備関係・固定資産台帳等の書類確認も行ったが、経営者は当日、とくに何をするわけでもなく、調査員が勝手に各部署を見て回るという感じであった。

右記の調査を経営者の方々は、どの様に受け取るであろう。企業内を他人が勝手に見て回るのは、嫌なものであるのだろうか。約半日の間、調査員に企業内を開放すれば保険料の割引率を手にする可能性が有るのである。

火災保険の保険料は固定費といえる。建物規模が大きくなればなるほどに、リスク評価割引の利用価値は高いと思う。